

大船渡発

日本最大級のクレーン船

大船渡港では湾口防波堤の本体となる「ケーソン」の移動に日本最大級のクレーン船が作業にあたり、復興に一役買っています。このクレーン船は長さ140メートルのアームを持ち、4100トン吊り上げる能力を持つ「海翔（かいしょう）」です。ケーソンを仮置き場に移動する作業が始まり、海翔は関係者や市民が見守る中、重さ3500トンのケーソンをゆっくりと吊り上げ、タグボート3隻に曳航され、1キロ離れた対岸の永浜地区に向かいました。3月中に4つのケーソンが湾口防波堤の基礎部分に据え付けられるということです。



(2/13 ニュースエコー)

宮古発

「花見かき」産直施設

宮古湾産の「花見かき」は震災で養殖施設や船を失い大打撃を受けましたが、念願だった産直施設「うみのミルク」が宮古市内赤前にオープンしました。カキ鍋も振る舞われる中、施設には大勢の買い物客が訪れ、大ぶりの花見カキを次々と買い求めていました。「うみのミルク」は今シーズン試験販売の形で5月上旬まで営業予定で、本格営業は秋からとなります。(2/14 ニュースエコー)



大船渡発

仮設住宅の一部撤去



大船渡北小学校の校庭にある仮設住宅で1棟の撤去作業が始まりました。学校にある仮設住宅の撤去は県内で初めてとなります。この棟に入る4戸のうち3戸は

住まいの自力再建を果たし、1戸は同じ仮設団地内に転居したことから撤去されるもので、学校には車30台分のスペースが返還されます。

(2/17 ニュースエコー)

陸前高田発

アメリカの高校生来訪



東日本大震災の津波で流された実習用のボートがアメリカの西海岸に漂着し、その返還が地元の高校生の呼びかけで実現しましたが、返還運動を行ったカリフォルニア州クレセントシティのデルノート高校の生徒6人が高田高校を訪れました。学校では歓迎セレモニーが行われ、生徒およそ300人が体育館でデルノート高校の生徒を迎えました。デルノート高校の生徒は、寄せ書きしたバレーボールやトレーナーを高田高校に贈り、一方、高田高校は被災した松を使って作った数珠と奇跡の一本松などが描かれた絵葉書をプレゼントしました。このあとデルノート高校の生徒たちは家庭科の授業に参加し、岩手の郷土料理「ひつつみ」づくりにチャレンジし、交流を深めていました。

(2/18 ニュースエコー)

宮古発

さんりく元気ラジオ

(ワイドステーション内毎週水曜日放送)



今週はみやこハーバーラジオの木村彩子さんが、新しくオープンした産直「うみのミルク」について伝えてくれました。これは津軽石牡蠣養殖組合産直部会の生産者11人が

運営するもので、宮古市赤前の堀内地区にあります。震災の津波で養殖施設や船を失いながらもそれを乗り越え、生産者が直接お客さんに販売し、たくさんの人達に宮古産の牡蠣を食べてほしいという想いで作りました。大きく、うまみが強く、美味しい宮古の牡蠣。ぜひ皆さんに味わってほしいと関係者は話していました。近々ホームページも立ち上げるということです。(2/19)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122